ちょっと立ち止まって (1)

桑原 茂夫

1 自分ではAだと思っていたものが、人からBともいえると指摘され、なるほどそうもいえると教えられた経験は多いことだろう。

2 左の図は「ルビンのつぼ」と題されたものである。よく見ると、この図から二種類の絵を見て取ることができるはずだ。白い部分を中心に見ると、優勝カップのような形をしたつぼがくっきりと浮かび上がる。このとき、黒い部分はバックにすぎない。今度は逆に、黒い部分に注目してみる。すると、向き合っている二人の顔の影絵が見えてきて、白い部分はバックになってしまう。

（1・2は教科書本文における形式段落番号を表します）

説明的な文章の構成

説明的な文章の多くは、序論・本論・結論の三つのまとまりに分けられる。

序論	導入・話題の提示・問題提起
本論	具体的な説明
結論	まとめ・主張

結論は文章の最初か最後で示されることが多い。

（例）序論 → 本論 → **結論**

結論 → 本論 → **結論**

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線部「なるほどそうもいえる」とあるが、この内容を言いかえたものとして適当なものを選びなさい。

ア 自分の意見の方が正しいといえる。
イ 自分が思っていたことと、別の捉え方もできるといえる。
ウ 自分とは違う捉え方を指摘されることもあるといえる。
エ 人に教えられる経験は多いといえる。

(2) [1]段落の役割として、適当なものを選びなさい。

ア これから説明する内容に関する導入となっている。
イ これから説明する内容に対する結論を示している。
ウ AとBを比較して、それぞれの特徴を述べている。
エ 文章の結論に対する理由や根拠を説明している。

(3) [2]段落の内容に合うように、次の文の（　　）に入る言葉を選びなさい。

「ルビンのつぼ」を、（　　）を中心に見ると、優勝カップのような形のつぼが見える。

ア 二人の顔の影絵　　**イ** 二種類の絵
ウ 白い部分　　**エ** 黒い部分

(4) 「ルビンのつぼ」は、何を述べるための事例か。適当なものを選びなさい。

ア 白と黒が対照的な色であること。
イ 何を中心に見るかによって、別の捉え方ができること。
ウ ものを見るときは、よく注目してみることが必要であること。
エ つぼの形は、人の顔の横顔に見えることがあること。